

体育の授業に対する高校生の意識に関する一考察

——質問紙留置法による実態調査からの検討——

井筒次郎*・大坪敏郎*・吉田瑩一郎*・富岡元信*

(平成 6 年 12 月 22 日受付, 平成 6 年 11 月 21 日受理)

A Study on High School Students' Awareness for Physical Education —By a Informants-completed Questionnaire Method Survey—

Jiro Izutsu, Tosihiro Otsubo, Eiichiro Yosida and Motonobu Tomioka

The purpose of this study was to investigate the high school students awareness for physical education which has been developed in conformity with the Course of Study revised in 1978. Answered 2282 students of 12 schools sampled randomly from 10 points in the whole country.

The results can be summarized as follows;

1) We could appreciate that physical education was the most favorite subject in high schools. About 80% students feel that they need physical education. Most students, however, have little understanding of the aim of physical education shown in the Course of Study.

2) It is a problem that 43.5% students feel physical education is a trivial subject. This tendency is more remarkable among the students who don't recognize the need of physical education and dislike the subject.

3) To attract students to physical education, teachers have better not emphasize building up of physical strength in the class.

4) Sports which students want to play in the class are not equal with the ones that people are engaging in daily life. It seems that the sports learned in high school days don't always become lifelong sports.

はじめに

高等学校では、平成 6 年度より新学習指導要領による授業が学年進行で展開されている。新しい学習指導要領における「科目体育」では、特に「運動の実践による体力の向上」、「運動技能の獲得向上による生涯スポーツの基礎づくり」、「運動による社会的態度の育成」の 3 点を踏まえて目標が示されている¹⁾。そして、体操以外の運動領域については、「個に応じる指導」あるいは「一人一人を生かす学習」を充実させることが重要であるとし、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じた選択履修を大幅に拡大して、生徒選択による体育の授業を行うことが可能になった²⁾。

『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』は、

「意欲的に運動を実践しようと支えるのは、運動をすることの本当の楽しさや喜びを味わうことであり、その楽しさや喜びを求める運動への関心や運動技能の向上に対する意欲である。したがって、この時期に自己の能力・適性、興味・関心等に基づいて運動種目を選択し、競争の楽しさを深めること、課題の達成感を味わうこと、社会的態度を身につけることが重要である」と述べている。

新学習指導要領におけるこういった改訂の意図や諸点が、体育の授業の楽しさや生涯スポーツへの足がかりとしてどのように影響を及ぼしたかについては、何れ期間を置いて明らかにされる必要があろう。そのためにも、旧学習指導要領下で展開されてきた体育の授業が、生徒にとってどのようにとらえられていたかを、その最終年

* 教職教育Ⅲ研究室

表1 調査対象地域及び対象者数

北海道	福島	東京	富山	愛知	大阪	鳥取	高知	福岡	沖縄	計
239	293	590	116	129	123	118	243	118	304	2282名

表2 性別

男子	女子	N. A.	計
1568	683	31	2282名
68.7	29.9	1.4	100%

表3 課外活動加入状況 (%)

	男子	女子	全体
運動部	50.9	47.9	49.8
文化部	15.8	25.8	19.0
なし	32.7	25.9	30.6
N. A.	0.6	0.4	0.6

度に記録しておくことは意義あると考えられる。

本調査は、高校生にとっての体育の必要性や位置づけ、体育の授業内容に対する希望等について実態を明らかにするとともに、新学習指導要領下で展開される体育の授業に有意義な示唆を与える資料を得る目的で実施されたものである。

方 法

1. 対 象

全国から無作為に10地点を抽出した。各地点から更に無作為に3～5校を選び調査の協力を依頼した。そのうち、期間内に了解が得られた北海道、福島、東京、富山、愛知、大阪、鳥取、高知、福岡、沖縄の12高等学校の各学年1クラスずつを調査対象とした。

2. 期 間

調査期間は1993年5月～7月である。

3. 方 法

方法は質問紙留置法であり、質問紙は本論末尾に掲載したものをを用いた。

4. 配布数・回収数（率）

配布数は2282、回収数は2282、回収率100%であった。

5. 調査対象の特性

①地域

調査対象は表1に示した10地域、12校、2282名である。

②性別

調査対象の性別を表2に示した。

男子、女子の構成比率はおおよそ7:3の割合である。

③課外活動加入状況

表3には調査対象の課外活動加入状況を示した。

全体を見ると約半数の者が運動部、おおよそ20%が文化部に所属し、何れにも所属しない生徒が30%程度見られる。なお、課外活動の加入状況には男女間に有意差が認められる($P<.001$)。

結果及び考察

1. 体育の授業の必要性

図1は体育の授業の必要性について示したものである。

体育の授業の必要性を認めている者、つまり「絶対必要」及び「必要」に回答した者を合わせると8割を越えている。逆に、「必要ない」及び「全く必要ない」といった必要性を認めない者は7.3%である。理由はどうあれ、体育の授業は高校生にとって必要性が高いと認識されていることが理解できる。

2. 体育は好かれる科目か嫌われる科目か

表4は最も好きな科目、最も嫌いな科目について、それぞれ択一を条件とした選択結果である。

全教科目の中で、体育は最も好きな科目として第1位にあげられ、約1/4に支持されていることがわかる。ところが、以下、英語、数学、日本史、国語と続き、いわゆる主要教科の好まれる割合も高く、受験に対する意識の現れと推察できる結果も一方で示されている。

嫌いな科目について見ると、体育を第1位にあげた者は3.2%と多くはないことがわかる。例えば英語は、好かれる科目として第2位にあげられてはいるが、嫌われる科目としても数学に次いで第2位にある。このような見方をすると、体育は他教科に比べ好かれる科目ではあっても、嫌われる科目としては位置づいていないことが理解できる。ところが、主要教科（用具教科、内容教

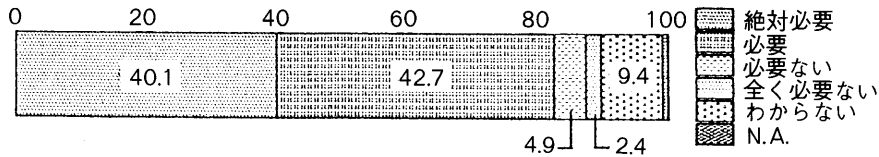


図1 体育の必要性

表4 最も好きな科目と嫌いな科目

	国語	現社	世史	日史	政経	数学	物理	化学	生物
好きな科目1位	6.5	2.8	5.8	7.9	2.0	8.8	0.9	2.7	3.3
嫌いな科目1位	8.1	4.8	5.5	3.9	3.2	25.2	8.5	6.0	1.9
	英語	体育	保健	音楽	美術	家庭	その他	なし	N. A.
好きな科目1位	11.3	25.8	0.8	6.4	5.8	1.8	6.2	—	1.2
嫌いな科目1位	19.8	3.2	1.6	2.4	1.5	1.2	2.4	—	0.8

表5 体育の必要性和体育の授業のとらえ方

	必要である 1890	必要ない 166	わからない 214	全体 2270
運動技能習得	23.1	7.8	11.2	20.8
時間つぶし	2.1	18.7	8.4	3.9
息ぬき	17.0	10.2	15.9	16.4
ストレス解消	11.1	7.2	6.5	10.4
体力づくり	14.4	9.6	15.9	14.2
運動欲求充足	14.8	6.0	7.9	13.5
遊び	9.9	12.0	9.8	10.1
その他	5.6	27.7	21.5	8.7
N. A.	2.0	0.6	2.8	2.1

χ^2 検定の結果「必要である」「必要ない」「わからない」の間に授業のとらえかたで有意差が認められる。 $P<.001$

表6 体育の好き嫌いと体育の授業のとらえ方

	体育が好き 558名	体育が嫌い 73名
運動技能習得	32.5	15.1
時間つぶし	1.4	13.7
息ぬき	14.8	2.7
ストレス解消	9.7	4.1
体力づくり	8.5	26.0
運動欲求充足	15.3	5.5
遊び	13.3	1.4
その他	3.1	26.0
N. A.	1.5	5.5

科)を除く教科目の中で見ると、体育は他の教科目に比較して嫌われる割合の高いことが示されている。技能の程度が人前で明らかにされ、しかも、それが評価の主要

な部分を占めていることに影響されていないかといった点については、今後検討すべき課題である。

いずれにせよ、高校生にとって体育は必要な科目であり、好かれる割合の高い科目であると判断できる結果が示されている。

3. 体育の授業のとらえ方

表5、表6は体育の授業がどういう場であるかに対する回答を、体育の必要性及び体育の好き嫌いとの関連で示したものである。

①体育の必要性和体育の授業のとらえ方

表5の全体を見ると、体育を「運動技能の習得」の場であるとしている者が約20%と最も多くを占めているが、「時間つぶし」、「息ぬき」、「遊び」といった体育科の目標とは離れた理解も約30%あることが示され、図1体育の授業の必要性で見たように、必要性は多くの生徒が認めていても、必要性の中身はそれぞれ異なっていることが理解できる。

表5体育の必要性和との関連を見ると、「必要である」、「必要ない」、「わからない」のそれぞれに回答した者と体育の授業のとらえ方には有意差が認められる($P<.001$)。特に、「必要ない」と回答した者に、体育の授業を「時間つぶし」、「遊び」ととらえている者が合わせて約30%いることが示されている。なお、「必要ない」、「わからない」とした者には、「その他」への回答が最も多く見られ、記述欄がないため具体的内容までは明らかでないが、少なくともここに例示した内容以外の場として体育をとらえている割合の高いことが示されている。つまり、「必要ない」、「わからない」と回答した者の多くは、

表7 好きな種目, 嫌いな種目 (男子)

	◎	○	×	△	N. A.		◎	○	×	△	N. A.
体操	9.4	30.8	32.7	25.9	1.3	テニス	58.7	7.8	12.6	19.6	1.3
器械	10.9	24.8	39.5	23.7	1.0	卓球	51.8	8.9	13.6	24.1	1.6
陸上	24.6	36.7	21.0	16.4	1.4	バドミ	51.8	10.7	11.9	23.9	1.7
水泳	34.2	22.3	22.3	20.0	1.2	ソフト	62.7	10.2	9.4	15.4	2.3
ハンド	30.4	30.2	17.7	30.0	1.7	柔道	27.0	29.1	26.3	15.5	2.0
サッカー	66.2	20.5	6.1	5.6	1.5	剣道	14.3	18.0	39.8	25.9	2.2
ラグビー	22.1	39.0	16.6	20.5	1.8	相撲	13.3	46.4	24.4	13.8	2.0
バレー	61.4	18.8	8.4	9.9	1.4	ダンス	7.0	15.8	48.5	27.0	1.7
バスケ	64.7	19.1	7.1	7.4	1.7						

好きな種目, 嫌いな種目 (女子)

	◎	○	×	△	N. A.		◎	○	×	△	N. A.
体操	14.8	54.0	12.2	17.4	1.6	テニス	63.0	23.6	5.6	6.3	1.5
器械	12.9	48.6	20.1	16.7	1.8	卓球	33.8	9.5	21.2	33.5	1.9
陸上	24.2	48.3	13.0	12.6	1.9	バドミ	65.9	7.0	5.0	20.5	1.6
水泳	42.6	30.3	10.5	14.8	1.8	ソフト	34.0	21.8	17.4	25.5	1.3
ハンド	19.3	29.0	18.7	31.2	1.8	柔道	8.1	40.1	21.7	28.8	1.3
サッカー	33.1	54.5	5.6	5.6	1.3	剣道	10.8	22.0	29.4	36.3	1.5
ラグビー	5.4	45.4	20.4	27.2	1.6	相撲	1.0	51.0	24.3	22.1	1.6
バレー	64.3	28.1	3.1	3.2	1.3	ダンス	20.5	32.9	21.7	23.6	1.3
バスケ	59.4	31.6	3.4	3.8	1.8						

◎: プレイするのも見るのも好き, ○: 見るのは好きだがプレイするのは嫌い, ×: プレイするのも見るのも嫌い, △: どれにも当てはまらない

体育の目標を十分理解しないまま授業に臨んでいる割合の多いことが推察される。

②体育の好き嫌いと体育の授業のとらえ方

表6は最も好きな科目として体育を第1位にあげた558名と、最も嫌いな科目として体育を第1位にあげた73名の比較である。つまり、体育の好き嫌いによって体育の授業のとらえ方が異なるかどうかを見ようとしたものである。

「体育を好きな科目の第1位にあげた者」と「体育を嫌いな科目の第1位にあげた者」の間には、体育の授業のとらえ方に有意差が認められ ($P<.001$)、体育が好きな者に「運動技能の習得」の場であるとする割合が高く、嫌いな者には「体力づくり」の場としてとらえられる割合の多いことが伺える。体育の授業が体力づくりの場であることを強調しすぎると、体育嫌いの増える割合が高くなるのかも知れない。

4. 好きな種目と嫌いな種目

表7は学習指導要領に示された運動領域及び運動内容(以下便宜的に運動種目もしくは種目と表記)と、体育の授業で扱われることの多いと考えられる運動種目を経験に基づいて例示し、それぞれに対する選好度を男女

別に示したものである。

男子の「◎プレイするのも見るのも好き」で50%以上に支持されている種目は、サッカー、バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールであり、女子では、バレーボール、バスケットボール、テニス、バドミントンである。男女とも球技種目の好かれる割合の多いことが示されている。

逆に、「×プレイするのも見るのも嫌い」で多かったのは、男子では、体操、器械運動、剣道であり、それぞれ30~40%程度の者が回答している。女子について見ると、武道の好まれていないことがわかるが、旧学習指導要領において主として女子に指導することとされていたダンスも、必ずしも多くからは好まれる種目ではなく、好きな者と嫌いな者が同程度いたことが理解できる。

新学習指導要領では、武道とダンスの選択について性差をなくしている。選択制を導入する意図は、生徒の能力・適性・興味・関心に基づき運動の楽しさを体験させることにあるが、生徒の体育の授業のとらえ方が異なっていることを踏まえ、単に興味や関心を強調するだけに終止しない内容の取り扱いが必要である。なお、例示されたそれぞれの種目について、男女間では全種目とも好き嫌いの程度に有意差が認められている。したがって、

表8 授業で取り入れてほしい種目 上位10
(3つ選択)

	男 子		女 子	
1 位	スカッシュ	50.7	スカッシュ	41.0
2 位	ボーリング	29.8	野球	32.7
3 位	ゴルフ	27.4	スキューバー	32.5
4 位	スキューバー	27.4	エアロビクス	29.1
5 位	エアロビクス	17.0	カーリング	17.6
6 位	フリスビー	13.5	ゴルフ	10.7
7 位	野球	12.5	ゲートボール	10.7
8 位	アーチェリー	11.5	フリスビー	9.7
9 位	ゲートボール	8.5	綱引き	8.5
10 位	F・ホッケー	7.5	ボーリング	7.5

回答総数 5951

表9 生涯を通じて行いたいスポーツ上位10

	男 子		女 子	
1 位	ボーリング	14.2	なし	12.3
2 位	なし	9.9	バレー	11.6
3 位	サッカー	9.7	水泳	11.4
4 位	バスケット	8.1	テニス	10.2
5 位	テニス	7.9	スキューバー	8.6
6 位	スキューバー	7.7	スカッシュ	6.6
7 位	スカッシュ	7.1	エアロビクス	6.4
8 位	ゴルフ	4.1	バスケット	6.0
9 位	水泳	3.8	バドミントン	5.6
10 位	陸上競技	3.7	トランポリン	4.5

男女共習授業の展開については、それぞれの運動種目に対する好き嫌いの程度に性差のあることを踏まえた指導が期待されることになる。

5. 授業に取り入れてほしい運動種目

表8は授業に取り入れてほしい運動種目について、3つまでの選択で回答を求めた結果である。

選択肢は、表7好きな種目と嫌いな種目で例示した17種目及び授業に取り入れてほしい運動種目(調査票の4.)で示した18種目の計35種目である。

合計5951、一人平均2.6の回答が得られた。つまり、現在の授業以外にもそれだけ多くの運動種目が期待されていることであり、学習指導要領で示された現在の運動種目に必ずしも満足しているわけではない実態が伺える。

希望する運動種目が多岐にわたっているため上位10位に着目して見たものであるが、男子ではスカッシュに約半数が、女子でも約4割が回答していることが注目される。男子のボーリング、女子の野球、スキューバー、

エアロビクスも約30%に支持されている種目であることがわかる。現在の高等学校の施設条件から不可能に近い種目も見られるが、学習したい運動種目には多様性があることを踏まえ選択制を考慮する必要があると指摘できる。

なお、表8では男女間に有意差のあることが示されている($P<.001$)。表7好きな種目と嫌いな種目の結果とも合わせて考えると、生徒の興味や関心に基づき運動の楽しさを強調した体育の授業という観点からは、指導法の工夫を考慮しないとして、男女共習でない方が望ましいと考えられる結果が示されている。

6. 生涯を通じて行いたい運動種目

表9は生涯を通じて行いたいと思う運動種目について示したものである。選択肢は5.授業に取り入れてほしい運動種目と同じであり、方法は択一である。

回答された種目が広範に及んでいるため、男女とも上位10位までを示した。

男女ともに特定の種目に集中するといった傾向は認められず、生涯を通じて行いたい種目の多様性が伺える。また、生涯を通じて行いたいスポーツの順位に男女間で相違のあることも理解できる。

なお、授業で取り入れてほしい種目として男女とも40~50%が希望したスカッシュ、あるいは男女とも約30%程度の回答が見られたスキューバーなどは、授業では取りあげてほしい種目ではあっても、生涯を通じて行いたい種目としては希望の多くないことが本結果に示されている。

新学習指導要領の体育科の目標で示された「運動技能を高め」とは、自分の選択した運動の技能を一層向上させ、その運動の持っている特性により深く触れることによって、運動の継続的な実践を促すことを目指すものであると示されているが³⁾、生徒が授業で取りあげてほしいと希望した種目は、そのような意図で回答されている割合の高くないことが推察できる。

したがって、生徒の興味や関心を主体にした授業内容は楽しさは求められても、それが生涯を通じて親しまれる運動種目としては位置づく割合が必ずしも高くないことも踏まえ学習内容を考慮すべきである。

7. 体育の授業の楽しさについて

表10は男女別・体育の好き嫌い別に見た体育の授業の楽しさについての結果であり、表11は、体育の必要性との関連で示したものである。

表10の全体を見ると、体育の授業が楽しいと回答した者は約半数であることが示されている。好かれる科目

としては第1位にあるが、授業を楽しい受けている者は約半数にとどまっていることが理解できる。

他教科の実態が不明で比較できないが、楽しいと感じる者が約半数という授業の実態は、専門職としての資格を有する教員が指導に携わっていることから、必ずしも望ましいと実感できる値ではないと考える。なお、体育の授業の楽しさについて男女間に差は認められない。

体育の好きな者と嫌いな者では、体育の授業が楽しいと感じる割合に有意差のあることが示されている ($P < .001$)。体育が好きな者にとっては楽しいと感じる割合が高いということになるが、それでも60%程度にとどまっている。逆に体育が嫌いな者の3/4は体育の授業がつまらないと回答している。

楽しい授業は、体育を好きにする条件のひとつである

表10 男女別・体育の好き嫌い別に見た体育の授業の楽しさ

	男子	女子	体育が好き	体育が嫌い	全体
楽しい	51.5	50.5	60.4	21.9	51.2
つまらない	43.8	43.3	34.2	75.3	43.5
N. A.	4.8	6.1	5.4	2.7	5.3

表11 体育の必要性和体育の授業の楽しさ

	必要である	必要なし	わからない	全体
楽しい	56.1	13.9	38.3	51.2
つまらない	39.4	80.1	50.9	43.5
N. A.	4.5	6.0	10.7	5.3

表12 体育の評価と体育の好き嫌い

	体育が好き 558	体育が嫌い 73	全体 2282
予想より高い	15.6	24.7	16.6
予想通り	59.7	65.8	61.8
予想より低い	24.0	8.2	20.9
N. A.	0.7	1.4	0.7

と推察できることから、楽しい体育の授業の具体的内容について明らかにされるべきである。この点については、本調査票の自由記述欄に基づき検討中である。

表11の体育の必要性和との関連で見ると、体育の必要性を認める者とそうでない者との間に有意差が認められる ($P < .001$)。「必要ない」と回答した者の実に8割がつまらない授業を受けている実態が示されている。「つまらない」から「必要ない」のか、あるいは「必要ない」から「つまらない」のか、何れにしても「つまらない」理由も明らかにされなければ、楽しい体育の授業のあり方は明確にできない。

8. 体育の評価について

表12は体育の評価を体育の好き嫌い別に示したものである。

全体を見ると、約60%の者が予想通りの評価を得ていることがわかる。

体育の好き嫌いと評価の予想との間には有意差が認められず ($P < .001$)、体育が嫌いな者に予想より高い評価を得ている者が多いことから、予想以上の高い評価が体育の授業を好きにする要因となる率は低いと推察される。つまり、評価があがっても、体育が嫌いな者は嫌いのままとどまると推察できる。体育の授業を好きにする要因は評価以外に求めるべきであることが示唆されている。

9. 最も尊敬する教師

表13は最も尊敬する教師の科目名についての回答で

表14 体育の好き嫌いと尊敬する教師

	体育が好き	体育が嫌い
なし	46.4	なし 47.9
体育	20.1	英語 11.0
英語	7.0	国語 9.0
国語	5.6	音楽 6.8
数学	4.1	その他 5.5

表13 最も尊敬している教師

	国語	現社	世史	日史	政経	数学	物理	化学	生物
男子	5.5	3.1	3.6	1.4	1.1	6.2	1.5	2.7	1.1
女子	9.1	4.4	2.5	1.5	0.3	5.7	1.5	1.0	1.2
	英語	体育	保健	音楽	美術	家庭	その他	なし	N. A.
男子	7.0	8.0	1.8	0.8	1.0	0.2	4.0	49.9	1.1
女子	11.6	11.6	1.2	1.6	1.0	0.9	2.2	41.9	1.0

あり、表 14 は体育の好き嫌い別に尊敬する教師の科目を示したものである。

表 13 から高等学校において尊敬される教師の決して多くないことがわかる。それは男子で約半数、女子でも 40% の者が尊敬する教師は「なし」に回答しているからである。回答のあった科目の中では、男女ともに体育の教師をあげる割合が最も高く、体育の教師は他教科と比較すると好かれる存在といえるが、その割合は必ずしも高くはない。

なお、一般的に体育と保健は、ともに保健体育の教員免許を有する教師によって指導されていると考えられるが、体育の教師に比して、保健の教師の尊敬される割合の低いことが示されている。この点は、尊敬の要因が教師よりも科目に影響されていることを推察させるものである。

表 14 の体育の好き嫌いとの関係で見ると、体育が好きと回答した者のうち 20% が尊敬する教師として体育をあげており、体育の嫌いな者が尊敬する教師として体育の教師をあげる割合の低いことから、体育が好きであることと体育の教師を尊敬することの間に関連性が推察できる。

ま と め

本調査の結果はおおよそ次のようにまとめられる。

- ・体育は多くの高校生がその必要性を認める科目である。また、他の科目と比較して最も好まれる科目であり、嫌われる科目としては位置づいていない。ただし、技能教科と比較した場合は嫌われる割合が高いことから、技能の評価のあり方について検討の必要性が示唆されている。

- ・体育の目標を理解して授業に臨んでいる高校生は必

ずしも多くはない。そして、体育の必要性を認めない者にこの傾向は顕著である。体育嫌いを増やさないためには、体育の授業が体力づくりの場であることを強調しすぎないように配慮する必要がある。

- ・体育の授業として、球技は平均して男女ともに好かれる割合の高い運動種目である。逆に、器械運動や武道は嫌われる割合が高いといえる。そして、運動種目に対する好き嫌いには性差が認められる。したがって、武道とダンスの選択、男女共習授業については、生徒の興味・関心だけでなく、指導法の工夫も含め配慮することが必要である。

- ・生徒が希望する運動種目は多岐にわたっているが、それらの多くは生涯スポーツを意図した運動技能の獲得という生徒の期待によるものではないと考えられる。

- ・高校生の約半数が体育の授業をつまらないと感じている点は重要である。体育がつまらないと感じている者は、体育が嫌いな者、体育は必要ないと考えている者により多いことから、楽しい体育の授業のあり方についてより具体的に検討すべき必要性が指摘できる。

- ・尊敬する教師を持たない高校生が約半数いる中で、体育の教師は第 1 位に位置している。ただし、保健の教師としての評価は高くない。尊敬に値する体育の教師は体育好きの生徒の増大に好影響を及ぼすと考察する。

注記と引用文献

- 1) 浦井孝夫, 山川岩之助, 金子明友編『改訂高等学校学習指導要領の展開 保健体育科編』明治図書 1990, p. 24.
- 2) 高等学校保健体育指導資料 指導計画の作成と学習指導の工夫 文部省 1992, p. 14.
- 3) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 文部省 1989, p. 17.

体育の授業に関する意識調査

1. 一番好きな教科・科目を下記から 1つ 選んでマークして下さい。

(ア) 国語 (イ) 現代社会 (ウ) 世界史 (エ) 日本史 (オ) 政治・経済
 (カ) 数学 (キ) 物理 (ク) 化学 (ケ) 生物 (コ) 体育
 (サ) 音楽 (シ) 美術 (ス) 英語 (セ) 家庭 (ソ) 保健 (タ) その他

2. 一番嫌いな教科・科目を下記から 1つ 選んでマークして下さい。

(ア) 国語 (イ) 現代社会 (ウ) 世界史 (エ) 日本史 (オ) 政治・経済
 (カ) 数学 (キ) 物理 (ク) 化学 (ケ) 生物 (コ) 体育
 (サ) 音楽 (シ) 美術 (ス) 英語 (セ) 家庭 (ソ) 保健 (タ) その他

3. 次にあげる運動種目についてあなたはどのように思いますか。プレイするのも、見るのも、好きというものには◎、見るのは好きだが、プレイするのは嫌いというものには○、見るのもプレイするのも嫌いというものには×、どれにも当てはまらないものには△を、すべての運動種目にそれぞれ該当するものを選んでマークして下さい。

(ア) 体操 (イ) 器械運動 (ウ) 陸上競技 (エ) 水泳
 (オ) ハンドボール (カ) サッカー (キ) ラグビー (ク) バレーボール
 (ケ) テニス (コ) 卓球 (サ) バドミントン (シ) ソフトボール
 (ス) 柔道 (セ) 剣道 (ソ) 相撲 (タ) バスケットボール (チ) ダンス

4. 上記の種目以外に、学校の授業で取り入れてほしい種目があれば下記の中から 3つまで 選んでマークして下さい。下記に該当するものがない場合は(ユ)「なし」にマークしてください。(3つ以上はマークしないで下さい。)

(ツ) ゴルフ (テ) ボーリング (ト) スキューバー (ナ) アイスホッケー
 (ニ) 野球 (ヌ) スカッシュ (ネ) ゲートボール (ノ) ジョギング
 (ハ) スキー (ヒ) フリスビー (フ) エアロビクス (ヘ) フィールドホッケー
 (ホ) 綱引き (マ) カーリング (ミ) トランボリン (ム) アーチェリー
 (メ) スケート (モ) サーフィン (ヤ) その他 (ユ) なし

5. あなたが生涯を通じて行いたいと思う運動種目は何ですか。3. 4. の選択肢、(ア)～(ユ)の中から 1つ 選んで、該当するものにマークして下さい。

6. 体育の授業時間は、あなたにとってどういう場ですか。該当するものを 1つ 選んでマークして下さい。

(ア) 運動技能の習得 (イ) 時間つぶし (ウ) 勉強の合間の息抜き
 (エ) ストレス解消 (オ) 体力づくり (カ) 運動欲求の充足
 (キ) 遊び (ク) その他

7. 体育の時間についてどう思いますか。該当する項目(ア)～(ウ)のいずれかを選び適する時間数にマークして下さい。

(ア) 週 () 時間に増やして欲しい。
 (イ) このまま、週 () 時間にして欲しい。
 (ウ) 週 () 時間に減らして欲しい。

8. 学校の授業としての「体育」の必要性について、該当するものにマークして下さい。

(ア) 絶対必要 (イ) 必要 (ウ) 必要ない (エ) 全く必要ない (オ) わからない

9. これまでの経験から、自分自身が考える体育の成績と、実際先生がつけた体育の成績について、該当するものにマークして下さい。
 (ア) 予想した以上に高い評価だった。 (イ) 予想どおりの評価だった。
 (ウ) 予想していたより低い評価だった。
10. 体育の授業内容について、どう思いますか。該当するものにマークして下さい。また、マークしたそれぞれについて、その内容・理由などをマークシートの指定した場所に記入して下さい。
 (ア) 今のままで十分楽しい、 ⇒ あなたにとって楽しい授業とは何ですか？
 満足している。 (具体的に書いてください)
 (イ) 何となくつまらない ⇒ 1. どうしてつまらないのですか？
 内容を変えて欲しい。 2. どんな授業を望んでいますか？
11. もっとも尊敬している先生の教科・科目名は何ですか。該当するものを 1つ 選んでマークして下さい。該当者がいなければ、(チ)「なし」にマークして下さい。
 (注: 1. の選択肢と同じです。)
12. 上記の先生は、自分の所属しているクラブの先生ですか。
 (ア) はい (イ) いいえ (ウ) (チ)「なし」にマークした
13. あなたの所属クラブは何ですか。該当するものにマークして下さい。[無所属は、(ミ)「なし」にマークして下さい。]
 (ア) 陸上競技 (イ) 水泳 (ウ) 硬式テニス (エ) バレーボール (オ) 野球
 (カ) 体操競技 (キ) 柔道 (ク) 軟式テニス (ケ) ソフトボール (コ) スキー
 (サ) ラグビー (シ) 卓球 (ス) レスリング (セ) バドミントン (ソ) ダンス
 (タ) サッカー (チ) 山岳 (ツ) ボウリング (テ) ハンドボール (ト) 新体操
 (ナ) スケート (ニ) 相撲 (ヌ) 自転車 (ネ) フェンシング (ノ) 剣道
 (ハ) ウェイトリフティング (ヒ) バスケットボール (フ) 弓道 (ヘ) ゴルフ
 (ホ) 上記以外の運動部 (マ) 文化部 (ミ) なし
14. 所属クラブを記入した方は、クラブへの出席状況を下記から選んでマークして下さい。
 (ア) ほとんど毎日出席 (イ) 週3日～4日出席 (ウ) 週1日～2日出席
 (エ) 気が向いたときに出席する程度 (オ) 籍があるだけで出席していない
15. 高校卒業後の進路は決めていますか。該当するものにマークして下さい。
 (ア) 進学(大学・短大・専門学校) (イ) 就職 (ウ) まだ決めていない
16. 自分の学科名・学年・性別・県名を、該当するものにマークして下さい。
学校名 普通. 理数. 体育. 国際人文. 商業. 機械. 運輸. 営業. 事務. 経理.
県名 北海道. 福島. 東京. 神奈川. 富山. 愛知. 大阪. 鳥取. 高知. 福岡. 沖縄